

木 洩 れ 陽[↑]
T. KASAI

木もれ陽はいつもやさしく
私をみまもってくれる

夏の灼熱のなげきに そして

冬の落ち葉は 大地へとかえり

時の流れのはかなさを 告げる

子ども時代大樹の下で ねころび

木の葉のすきまから こぼれる

光に まどろんでいた

大人になり かげろうが ゆらめく

アスファルトに 立ち止まり

まぶたに 手の平をあてて おだやかな

場面を思い出せたらう

陽光のきらめきが 包んでくれる

無 題

もう 夜が 明ける
朝のしじまをぬって
だれかの呼ぶ声が聞こえる
きのうと今日という日のすきまを結ぶ
長い瞬間を 解いて
時間の影は 僕の心を映す鏡を
打ち砕く

今 このほほを包む手に
何か ふれた気がする
ときの精霊の啓示なのか
それとも 記憶のいたずらなのか

僕は 目ざめたい 自分の意志で
この手で すべてを変えてみたい
あまねく満天の星をうごかすように

僕は 変わるのではなく
ただ自分自身になりたいだけ

孤高の吟遊詩人は

風のなる丘でロブさむ

よろこびの詩を

その横顔に笑みがこぼれた

人は彼も異端者とよぶが

風に向かつて立つ彼の足元に群れる

鳥達のささやきが

人の心のよりどころだと知る

彼は魂のゆき先を知っているのかもしれない

吹き過ぎた風はもどらない

いつも前へと通り過ぎてしまう

縁が結ぶ不思議な絆は

未来を約束してはくれない

風にむかっていつも彼は歌っている

その行き着く先は

夜空の満天をつらぬく流れ星が

知っている。

笠井 忠 明

2024.

満天の星の願いが
降るように

ここには
何も無いけれど

全てが

ある様な気がする

笠井

手和やかな

風の如く

世界の中の空を

自由に

駆け巡りたい

笠井

精神疾患

K・T

24歳で統合失調症を発症。
精神の病を患って、僕の人生は一転しました。
何が一転したのかと言いますと、
その病によって、人生に深みが増した！と言えます。

たしかに苦しく、鬱の症状と闘ったり、
この世から消えたいと思ったり、
散々悩んだこともありましたが、
人の優しさに触れ、落ち込んだ時は元気を分けていただき、
こんな人生でも悪くないかな、と。
そんなふうに思えました。

詩やイラスト、小説。
これらの創作での自己表現。
それを通じて心のグチャグチャを整理でき、
形に表せたことも一つの大きな宝となりました。

統合失調症の世界は、
一見、苦の世界であるように思えましたが、
見方を変えることで(受け取り方、捉え方による)、
その世界は何倍にも深いものであると気づきました。

自分で自分が貴い存在だと気づける病なのではないかな。

虐待体験

K・T

小学から中学にかけて、家庭内でのイジメを受けたのですが、
僕をいじめたのは義理の父さんでした。
熱い湯船に入れられました。辛いものを食べさせられました。

学力テストの点数が低いと叩かれました。

ですが、今現在の僕は少しも恨んでいません。
なぜ恨まずにいられるのか。
それは、父の傷みを知ったからです。
といいますか、父の傷みは僕にしか解らないものだからです。

虐待の連鎖は良くないし、許されないものであると感じます。
なのですが、なぜか許すことができました。

許さない、と思えば心は次第に汚れます。
ちくしょう、このやろう、と思っていると、
その声は大きくなるばかり。
自分自身を殺めることになります。

被虐待者の方は心のケアが絶対に必要だと思います。
そして、加害者も被害者だからです。

僕はそんな父さんをケアしてあげたいのです。